

普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年3月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

JA四万十営農アドバイザー活動について（営農指導体制検討会）



平成17年度に活動がスタートした営農アドバイザーの委嘱状授与式と、営農指導体制の検討会が3月20日に開催され、新たに5人を加えた9品目22人の営農アドバイザーが委嘱されました。

営農アドバイザーは、率先垂範して新技術の検討や営農指導員などと連携した営農指導活動を実践するなど生産者のよき相談相手として活躍されています。

授与式後の検討会では、各品目の現状・課題や取り組み方針が協議され、炭酸ガスやヒートポンプなどの新技術に関する意見交換もされました。

普及所では、篤農家が農家を指導する営農アドバイザーと連携して部会の活性化と産地振興に連携して取り組みます。

クリ 大規模新植



四万十町下津井地区では、平成24年から大規模（16ha）なクリ園地の再生に取り組んでいます。そのため、毎年数haに及ぶ新改植を行っていて、これまでに約2600本の苗木を植付け、今年は約800本を植付けました。

普及所では、急傾斜地での大規模経営であることから、収穫期の分散を考慮した品種構成や受粉樹の選定、植付け間隔などについて指導を行いました。

直販農家への農薬安全使用講習会



2月17日に大正地区の「アグリショップ四万十」、2月23日に十和地区の「おかみさん市」の直販農家延べ26名に農薬の短期暴露評価の導入に関する情報を中心に、農薬の安全使用講習会を開催しました。

両直販組織は、農薬の安全使用を繰り返し研修しており、参加者は熱心に学習していました。

第2回 高南地区農業改良普及推進協議会



2月24日、今年度の普及指導活動の取組み実績及び次年度の普及指導計画の概要について農家代表・関係機関の担当者に報告・説明しました。農家代表から「ミョウガは昨年台風でハウス被害が発生した。環境制御技術の普及もあるが、台風に耐えられる高強度ハウスも必要」「ニラは冬期の単価の高い時期への作型変更は農家に浸透してきたが冬場の品質低下の問題が生じている。環境制御技術については導入が進んでいくと思う」等、貴重な意見を頂きました。これらの意見を参考に今後の普及活動に活かしていきます。

ピーマン部会目ならし会及び現地検討会



3月11日、JA四万十ピーマン部会による目ならし会と現地検討会が実施され15名の生産者が出席しました。

JAからは、今後外気温が上がるにつれて加温機が稼働しない日が増えると結露して病害が爆発的に広がる危険性があるので換気のタイミングを早めること。普及所からは、IPM実証ほの調査結果をもとに天敵の密度が下がり防除効果が低いと感じたら薬剤散布を行い収量・品質が下がらないようにしようと呼びかけました。

今後も目ならし会と現地検討会で必要な情報を提供していきます。

集落営農リーダー研修会



2月23日、30組織40人が参加して集落営農リーダー研修会を開催しました。

管内2法人（農事組合法人ひらの、農事組合法人藤ノ川ファーマーズ）の事例を、補助事業や制度の活用についても紹介し、その後、米政策の動向、補助事業や制度についての情報提供を行いました。

参加者アンケートでは、法人についての勉強会への参加希望が上がっており、次年度から集落営農塾として研修会を開催していきます。